

平成29年

目黒区教育委員会

第42回定例会会議録

(平成29年11月7日開催)

第42回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成29年11月7日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	尾崎 富雄
	教育委員会教育長職務代行者	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	後藤 幸子
	教育委員会委員	櫻井 道雄

出席職員	教育次長	野口 晃
	教育政策課長	山野井 司
	学校統合推進課長	増田 武
	学校運営課長	村上 隆章
	学校施設計画課長	照井 美奈子
	教育指導課長	田中 浩
	教育支援課長	酒井 宏
	統括指導主事	寺尾 千英
	統括指導主事	古舘 秀樹
	生涯学習課長	馬場 和昭
	八雲中央図書館長	石松 千明

書記		小野塚 幸隆
		山東 隆博

(議事日程)

- | | | |
|------|------|-------------------------------------|
| 日程第1 | 報告事項 | 平成30年度隣接小学校希望入学制度申込結果
(中間集計)について |
| 日程第2 | 報告事項 | 小学校第4学年における自然宿泊体験教室の短
縮について(案) |
| 日程第3 | 報告事項 | 区有施設見直しに係る庁内検討体制の見直しに
ついて(案) |
| 日程第4 | 報告事項 | 平成29年度角田市との民間交流事業への支援
実施結果について |
| 日程第5 | 報告事項 | 平成29年度生涯学習フォーラムの開催につい
て(案) |

資料配布

- ・学校統合推進課だより(南部・西部地区版No. 22)

(午前9時30分開会)

- 教育長 第42回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員、欠席職員はございません。署名委員は後藤委員です。
ただいま、傍聴の申請がありましたのでお諮りします。傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、傍聴を許可することといたします。
なお、以後の傍聴の申請はその都度許可することとし、委員の皆様にはお伝えすることはいたしません。
それでは日程第1を議題とします。

(日程第1 平成30年度隣接小学校希望入学制度申込結果(中間集計)について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がございますか。
- 委員 原町小学校の出が多いということが例年続いている傾向ですけれども、理由はつかんでいきますか。ここが少ないと第九中学校が必然的に少なくなる悪循環になってしまいます。まずは原町小学校に入っていただく児童の数が増えていくのが望ましい形と思います。
- 説明員 我々としてもこの数字を改善したいと考えているところですが、具体的に原町小学校の出が増えていることについての状況や理由については把握できていない状況です。
私が窓口対応を行ったときに、原町小学校の学区域の方で大岡山小学校を隣接で希望された保護者の方とお話できました。その保護者の方は、大岡山小学校に関しては校舎の外観、校庭の広さなど非常に明るい開放感がある一方、原町小学校は住宅街に、小ぢんまりした学校という印象とのことでした。全体でこのマイナスのイメージがどう生じているのかは、把握できていない状況です。
- 委員 アンケートなどの調査をされているときに、理由を書く欄があるのででしょうか。理由を書く欄があった場合、どういう理由が記

載されているのでしょうか。

○説明員 隣接の申し込みに関する記載の中で特に理由については記載が
ございません。今アンケートを行っておりますので、読み込んでい
きたいと思います。

○教育長 全体を見ますと受け入れ可能な学校も10校に減ってきたとい
うことで、しかも35人全員受けられる学校が6校に減ってきて
います。これからアンケート結果が出てくると思いますので、そ
こでまた一つの結論を導いていく必要があると思っております。

○教育長 その他ご質問等ございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 小学校第4学年における自然宿泊体験教室の短縮について(案)
(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございますか。

○委員 振り替えのない土曜授業は、絶対的なものなのでしょうか。子
どもから見ると、宿泊型の体験や夏休みを楽しみにしていると思
います。

○説明員 土曜日については学校を休業しておりまして、家庭や地域での
活動を充実させるという当初の趣旨にのっとり、目黒区では、そ
れぞれ計画を立てて児童・生徒が活動をしているところですので、
振り替えのない土曜授業の実施ということにつきましても、教育
課程委員会の中でも取り上げましたが、目黒区では、現状の定着
しているもので続行するという事になっております。

○委員 授業時間の確保のために第4学年の自然宿泊体験教室を短縮す
るということですがけれども、その授業時間の確保は第4学年だけ
でいいのでしょうか。

引率に行かれる先生たちの話を聞くと、第4学年の2泊3日より
も第6学年の3泊4日を短縮してもらいたいという声を聞きます。
3泊4日の集団生活は、子どもたちも疲れてくるので、最後
はまとまらないことが多いという話も聞きます。第6学年の短縮
は考えずに第4学年だけという理由は为什么呢。

○説明員 第4学年においては特に外国語活動の授業時数の確保が入って
まいりますと、授業の時数の確保が難しいという計算になってい

ます。もちろん授業時数が増えます高学年におきましても、外国語の教科が入ります。しかし特に4学年については、そのほかの行事等の関係からも時数の確保が難しいです。

○委員 第4学年が特に授業の時間の確保が難しいというところはわかりました。でも、子どもたちにとって2泊3日の初めていく宿泊体験は楽しみにしていると思います。1泊2日だと移動の時間がありますから、活動は半日です。次の日も半日だけ活動し、帰ってくることでとなります。非常に短い中で活動していかなければいけないと楽しみが減りますので難しい問題だと思います。

○説明員 第4学年が1泊減るというところですが、実施しておりますプログラムは、自然宿泊体験教室の4年間の連続性を踏まえまして発達段階に応じた体験活動となるよう、4つのカテゴリーに分けて活動を配置しています。この4つのカテゴリーにつきましては、1泊2日の中に配置することも可能となっています。教育課程委員会の中で学校の話をお伺いすると、ホームシックといいますか、2泊3日が難しい児童が増えてきているという現状もあります。土曜授業につきましては、今後検討したいと思います。

○教育長 6年生の3泊4日の合理性はどうか。

○説明員 6年生と4年生は同じく興津で宿泊を重ねておまして、実際のところ、2泊3日での活動が重複してしまっていて、なかなか充実させていくところが難しいという現状もございます。そういった意味で4年生の1泊2日、5年生の2泊3日、6年生の3泊4日と、段階を追っていくという計画を考えています。

○説明員 補足いたしますと、他区では、セカンドスクールといって5泊6日ですとか4泊5日ですとか、長くともところもあります。これは学校を離れて集団生活をすることによって、子どもたちの人間関係を豊かにするという狙いがありまして、6年生のこの時期は卒業に向けて学級、学年を団結させるという大きな狙いがあります。6年生の3泊4日については、目黒区の子どもたちにも、家を離れて学校を離れて集団生活を行うという一つ大きな意義があると思っております。現にこの3泊4日に参加することを通して、学校になかなか行けなかった子どもが学校に行けるようになったという事例もございます。

○委員 確かに卒業に向けて団結していくとか友情を深めるとか、そういうところで大きな意義があると思います。ただ、興津、八ヶ岳、また興津と同じところに2回行くこととなります。ですので活動

内容をしっかり先生方に考えていただいて、せつかく3泊4日の長い時間意義のある活動にしていただけるようお願いしたいと思います。要望です。

- 教育長 その他ご質問等ございますか。
 特にないようですのでこの報告を受けました。
 次に日程第3を議題とします。

(日程第3 区有施設見直しに係る庁内検討体制の見直しについて(案)(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございますか。
- 委員 地域の人々の意見がどういう形で反映されるようなシステムになっているのですか。
- 説明員 区有施設の見直し計画の策定に当たりましては、区民の方のご意見を伺う期間を設けております。計画を策定する場合には、区側や議会の意見だけではなく、広く区民の方にご意見をいただき、修正していくという形を取っております。特に区有施設の見直し計画の時は、かなりの意見がございました。
- 教育長 その他ご質問等ございますか。
 特にないようですのでこの報告を受けました。
 次に日程第4を議題とします。

(日程第4 平成29年度角田市との民間交流事業への支援実施結果について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございますか。
- 委員 参加人数で18歳以下という内訳が示されていますが、18歳で分けた理由は为什么呢。例えば緑ヶ丘小学校は18歳以下が4人ということですので子どもが少ないというイメージがあります。逆に月光原小学校は、18歳以下が29人なので、子どもたちが多く見えます。
- 説明員 18歳で分けた理由は、青少年団体について18歳以下を通常団体のAという形で区分しております。半数が30歳以下というBの区分がございますので、18歳以下が何名いるかということ

を示した内容です。

緑ヶ丘小学校ですが、春が小学生が3人、幼児が1人、そして大学生が4人、そして20代が2人で、あとは保護者や校長先生という状況です。

裏面の月光原小学校につきましては、子どもたちと引率者が3、4人で行っているというような状況でございます。緑ヶ丘小学校につきましては、今後もできるだけ青少年ということで、小学生が多く参加していただけるような形で実行委員会あるいは学校等に働きかけをしていきたいと考えています。

○教育長 本来この事業は、青少年団体の活動支援として青少年の健全育成を目的としているので、18歳以下の人数が少ない理由をきちんと把握しているのでしょうか。それから緑ヶ丘小学校は交通手段はバスで、月光原小学校は電車です。このメリット・デメリットを把握していますか。

○説明員 18歳以下が少ない理由については、明確に把握しておりません。震災が終わってから大分たっているということで、現在の在校生は以前の状況がわからないということもございまして、なかなか事業が周知されていないという部分もあると思っておりますので、学校や実行委員会と連携しながら現在の在校生に、事業のよさを十分広げていきたいと考えています。

2点目の交通手段の関係でございますが、電車の方が時間的に余裕を持てます。バスですと時間がかかりますので、新幹線、電車の利用については、ある程度角田市内での時間がとれるということがメリットと考えてございます。

しかし、新幹線ですと団体で座席を確保することが、難しいということがあります。バスの場合ですと借り上げということで、確保しやすいというメリットがございまして。

○教育長 青少年委員会の委託事業として今年度から実施し、教育委員会に報告していただいた際にも各委員から、子どもの参加人数が10人というのは非常に少ないという指摘を数多くいただいたところですので。本来この事業は大人のための事業ではなく、青少年の健全育成ですので、緑ヶ丘小学校の元PTA有志には、教育委員会でこういう要望がありましたということをお伝えして、次年度以降はある程度子どもの最低人数の縛りかけるところまでしないと改善できないと思います。

月光原小学校は、32人参加のうち子どもが29人ということ

は、引率は3人です。30人の18歳未満を3人で引率するということです。逆に緑ヶ丘小学校は4人の子どもを17人の大人で見ていることとなります。子どもの成長を考えたときに、大人の手が多過ぎると、子どもの健やかな成長にデメリットもあると思います。事業本来の趣旨からいけば青少年の健全育成にあるわけですから、これは何らかの対策を来年度は講じていただきたいと思います。強く要望します。

- 教育長 その他ご質問等ございますか。
 特にないようですのでこの報告を受けました。
 次に日程第5を議題とします。

(日程第5 平成29年度生涯学習フォーラムの開催について(案) (報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございますか。
- 委員 これは今年度初めての事業だと思います。説明でありましたが、目黒区生涯学習実施推進計画の重点プロジェクトに基づいて開催する運びになったという経緯をまとめていただかないと、これは何でしたかという話になりかねないと思います。
- 説明員 大変申しわけございませんでした。本来、経緯ということに記載すべきでした。今後、資料の作成については十分注意したいと思います。
- 教育長 その他ご質問等ございますか。
 特にないようですのでこの報告を受けました。

〔 資料配布
 ・学校統合推進課だより(南部・西部地区版No. 22) 〕

- 教育長 ほかにごございますか。
- 説明員 29年度の区民と区長のまちづくり懇談会が10月16日から11月3日まで開催されまして、参考で当日の次第、資料の抜粋をお配りさせていただきました。教育委員会事務局から教育次長や関係課長も出席させていただきました。
 当日ですけれども、区長から待機児対策、健康寿命への取り組み、それから目黒シティラン、ふるさと納税の4つを個別事項で

30分程度話をしました。その後、政策企画課長から3計画の改定を約10分、それに続いて質疑応答という形で進められました。質疑応答は子育て関係、ハード・ソフト含めたまちづくり、防災等々、さまざまな意見がありました。教育関係も9人の方からございました。その主なものをご報告をさせていただきます。

まず1つ目で、下目黒小学校の天然芝の養生の話が出まして、これは発言者はオケラとかの影響ではないかという前提で、天然芝が大分状況がよくないので、殺虫対策を抜本的にできないのかというお話で、教育次長から天然芝の保守については地域の協力も得ながら行っているということと、薬剤散布は周囲の環境や人体への影響もあるので難しいということ、現状ではオケラが嫌うにおいの液体を散布し対応しているけれども、抜本的対策ということになると苦慮している、これからも検討していきたいとお答えをしています。

次に銃剣道の指導は、今回の新学習指導要領の中で改めて教えられることになったと聞いたけれども、どうなのかというご質問でした。教育次長から、武道やダンスは既に教科に取り入れていて、少なくとも目黒区で銃剣道については教えていない、今後も予定はないというお答えをし、新学習指導要領との関係は今後確認します、とお答えをしています。その後確認しましたが、武道で行う種目の例示で銃剣道が加えられているというのは事実でした。ただ、目黒区では柔道を行っておりますし、銃剣道について今後も取り入れる予定はないという状況です。

次に実施計画素案の目的別事業費、教育委員会でもご質問いただきましたけれども、58億円から17億円に減少している主な理由についてということで、これは区長から東山小学校の改築が終わるからというお答えをした後に、教育次長から具体的な数字も挙げて説明をし、教育内容の低下につながるものではないということをしっかり説明をしています。

次に南部・西部地区の区立中学校の統合に関連して、区立小学校の児童数自体は増えているけれども、地元の区立中学校への進学者数が少ない。区立中学校の魅力づくりが大切ではないか、それをどう考えているのかといったご質問をいただきまして、教育次長から、30年度に統合方針を改定した以降の協議組織の立ち上げを説明した上で、区立中学校の在籍率は、今年度は52%台で低い、魅力づくりは課題と捉えていますということと、新校の

魅力づくり、これについては、協議組織等の中で今までと同様に検討をしていく予定だというお答えをしているところです。

○教育長 以上で本日の定例会を閉会いたします。

(午前10時30分閉会)